

<種地区>

	意見	回答	担当委員会
1	<p>&lt;議員定数について&gt; 市議会議員定数20人になるらしい。人口に対しての数を考えると、もっと少ないところもある。 人口も減り、税収も減っていることから、20でいいのかという声もある。 企業も厳しい中、独自で努力している。 議員定数の決定にあたっての議論の状況、今後の流れを伺う。</p>	<p>議会のあり方検討委員会で議論を重ねてきた。より開かれた議会へと議会改革を進める中で、道半ばであることから、議員定数を変える時期ではないのではないかという意見もあった。しかしながら、市民の皆さまの思いなど踏まえた中、定数を20にすることを議会のあり方検討委員会では決定した。今後、12月議会でその内容について上程し、議決する方向となる。</p>	議会あり方
2	<p>&lt;道の駅について&gt; 道の駅はなかなか進んでいないが、どうか。</p>	<p>区画整理をする中で、道の駅については3か所候補があった。 国土交通省からは、道の駅をつくるのであれば、避難場所となるべき防災機能を伴ったものにするようにという話があり、区画整理している土地をと思っていたが、海拔が低いことから方向転換がはかられた。道の駅構想がなくなったわけではない。</p>	経済建設
3	<p>&lt;議会報告会について&gt; 議会報告会のやり方について、どうかと思う。3人しか出席していない地域あると聞く。議会離れというか関心がない。やり方を考えた方がよいのではないか。</p>	<p>広聴広報委員会において議会報告会のあり方を議論してきた。この間、議会で議決した内容について委員会ごとに報告し、質疑を受けるというやり方で議会報告会を運営してきた。それでは市長と語る会と同じではないかという意見もいただいていたことから、この度は議員間で討議し、深掘りしてきた内容についてお示しすることとした。これまでのように地域の皆さまに対し議会報告会を開催するのではなく、テーマに関する関連団体と意見交換を重ねることを議会報告会とするということも議論してきたが、いきなりそのように変更するのではなく、今年度は地域へも出かけようとなった。今後議論する中で、議会報告会のあり方をより良いものに改善していきたいと思っている。ご意見は参考にしたい。</p>	広聴広報
4	<p>&lt;人口減少について&gt; 高校を卒業して多くの人材が外に出ている。市内に就職先もない。田舎暮らしの魅力をもっと発信しないと、人口は減っていくばかり。 市や議員、そして企業などが連携して何かできないか。</p>	<p>益田西道路が動き出している。ファクトリーパークにつながる方向性が示されているので、新たな企業が入ってくる可能性は広がったと思う。若者が働ける場の充実に期待している。ひいては定住や人口増につながっていくのではないかと考える。ご意見は参考にしたい。</p>	経済建設
5	<p>&lt;災害時の対応について&gt; 以前から言っているが、災害時に緊急的に人を非難させる必要があるとき、どうしても小さいサイズの自動車が必要となる。細い道が多い山間部ではなおのこと。公民館にある共用車を使えないか。</p>	<p>以前、議員として一般質問でとりあげたことがある。その時も検討するというような回答だった。再度確認する。 【執行部回答：総務管財課】 公民館設置の共用車については、災害時には災害発生状況の確認、住民への避難勧告等での利活用を想定しており、ご意見いただいた対応については現実困難であると考えている。</p>	総務文教
6	<p>&lt;通信環境について&gt; 公民館の周辺でも電波が繋がらない。通信環境の改善に向け議会からも後押ししてほしい。</p>	<p>通信環境の改善に向け、議会としても働きかけていきたい。</p>	総務文教

7	<p>&lt;観光資源の活用について&gt;          鴨嶋は沈んだ島だという伝説があり、ユーチューブなどにも取り上げられている。          雪舟、人麿はいうまでもなく価値あるもの。うまく活用すべきだ。</p>	<p>定説ではないところに魅力やロマンを感じることもある。そういったことのアピールについても検討すべきとは思ふ。ご意見を参考にしたい。</p>	<p>経済建設</p>
8	<p>&lt;空き家対策について&gt;          空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づいて益田市空き家等対策計画が策定されている。浜田市とよく似た内容になっているので、どこかのコンサルが作ったものではないかと推測されるが、空き家対策は本当に重要な課題である。          団塊の世代が後期高齢者になり、空き家がどんどん増えていく。危険でもある。          今のやり方は、空き家バンクの出前養成講座を行うとしている。年間3回なので、一年目に3地区、2年目で6地区ということであり、20地区終えようとしたら7年かかる。こんなことではだめだ。20地区それぞれに担当を決めて、例えば応援隊員にそれを担ってもらうなど。やるからにはKPIを意識して数値化してやるべき。</p>	<p>以前消防団で空き家調査をおこなうこととなった。しかし、把握するがその後の対応についてが難しい。所有者を発見するが、その所有者に対するアプローチをどうするかとなると、その権限がないので出来ない。あまりに危険な状況になると行政代執行ということにもなるが、それは行政の最後の手段である。予算も伴い、すべてそうもいかない。執行部に確認する。  <b>【執行部回答：建築課、連携のまちづくり推進課】</b>          出前講座については、令和元年度からこれまで計18回実施している。地域自治組織だけではなく、空き家予備軍への啓発として福祉部局との連携も図りながら、実施しているところである。引き続き出前講座を実施しながら、空き家対策の啓発に努めていきたいと考えている。          また、現在の計画では建物管理に対する意識啓発としての出前講座を実施目標としているが、今後計画の見直しに合わせ、これまで取り組んできた空き家対策の実施状況を検証し、空き家バンクの成約件数、老朽危険空き家除却支援事業の支援件数などの数値目標の設定を行いながら、空き家対策を推進していきたいと考えている。          空き家対策の取り組みについては、地域の皆様と連携、協力して取り組んでいく必要がある。市民の皆様のご意見を参考にしながら引き続き空き家対策に取り組んでいく。</p>	<p>経済建設          総務文教</p>
9	<p>&lt;UIターンに係る取組について&gt;          ユタラボが頑張っていると聞く。UIターンで益田に来る人はほとんどユタラボ関係の人だと。ユタラボに期待するのもいいが、そういう取り組みを行政自身がしっかり学び、行政が直接実施できるようにしていくべき。</p>	<p>空き家にユタラボのインターンの方が住んでいる例は私の地域にもある。うまく活用する方法もある。今後も研究が必要である。議会も勉強して提言していきたい。</p>	<p>総務文教</p>